

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生正人	法人・事業所の特徴 坂井市の北部ののどかな田園地域に立地しており、同敷地内に通所介護・認知症対応型通所介護・認知症対応型共同生活介護を併設しています。 県民せいきょうの理念「あなたらしさいつまでも」を念頭に置き、事業所独自として「えがお」という理念を掲げています。利用者だけでなく、家族、もちろん職員も笑顔でいられたらいいねという思いです。坂井きらめきでは、通いサービスが中心ですが、訪問を頻回に行う事で一人暮らしの方のサポートをしたり、宿泊を組み入れることで家族の介護負担を軽減できる様に心がけています。地域とのつながりを大切に、気軽に困りごとを相談しに来て頂けるような事業所を目指します。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能型ホーム 坂井きらめきハウス	管理者	長谷川典子	

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	2人	1人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ご利用者の生活歴や想いを話せる場を作ることで「～したい」を引き出し、実現に向け取り組めるよう仕組み作りを行っていきます 毎日のミーティングを継続し、ご利用者の細かな情報の共有や職員同士の情報交換を行い、日々のケアや「～したい」の実現に繋げていきます	身近な「～したい」についてはその都度計画し実行できましたが、自身の思いを上手く表現できるご利用者への聞き取りに偏ってしまい、声にならない声を読み取ることは十分ではありませんでした。日々のミーティングでの情報発信は継続できていますが、対応の統一には不十分な点がありました。	職員さんは本当に大変だと思いますが、しっかりと対応されているように感じます。 家族との関係性もしっかりとできていくように感じますので、家族から生活歴や家での様子などを聞き出すのも良いと思います。	声にならない思いを1つでも多く読み取れるように、ご利用者との関わりの時間を大切にします。 日々のミーティングでの情報共有と共に、月1回の全体ミーティングで、繰り返し対応の統一の見直しを行います。 また家族から生活歴等のヒアリングを行い、ケアに活かします。
B. 事業所のしつらえ・環境	家族参加型の「にこにこファミリーデー」を継続し、より多くのご家族が参加し、交流や悩みの相談ができる場になるよう企画、開催してまいります 来訪者には職員から笑顔で挨拶し、気軽に立ち寄れる事業所を目指します	コロナ禍において、家族参加型の開催は出きず、家族同士の交流は持てませんでしたが、送迎時や電話などで家族の思いや要望を聞き取り、思いに寄り添った対応ができるように努めました。	現状の中で、何ができるのかを考えて頂けると良いと思います。	コロナ収束の際には、「にこにこファミリーデー」を再開します。 又、これまでと違った目線でファミリーデーを見直し具体化してまいります。 来訪者に限らず、電話対応についても内容をしっかり聞き取り、さらに相手に好印象を与えられるように勉強会を行いマナーを身につけます。
C. 事業所と地域のかかわり	大関地区の行事やイベントへ参加してまいります 地域で開催されているサロンへの参加やきらめき開催のサロンを継続し、地域の方との交流の場を増やし、深めることで地域の方が気軽に困りごとを相談できるような関係作りを行います	コロナ禍で、地域行事やサロンも中止となり、交流の場を設けることができなくなりましたが、収束の際の再開に向けて連絡を取り合い、準備を進めています。	今後も当分の間はコロナの影響が続くと思います。今だからできることを探して取り組んで頂けると良いと思います。	人と人との直接的な交流が再開できない場合でも、地域の神社の草むしりやゴミ拾いなどの奉仕活動を行い、地域との関わりを大切にしていきます。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>ご利用者を取り巻く地域資源を知り、住み慣れた地域での生活がより安心して継続できるよう、地域の方と協力体制や関係性が築けるよう働き掛けていきます</p>	<p>生活スタイルや地域との関わりを聞き取り、地域と協力して支援を行うことができた事例もありましたが、民生委員の方との連携や資源の活用が活かさないままになってしまった地域もありました。</p>	<p>民生委員の活動については、地域や委員の方によって差があるかもしれませんが、どこまで介入していいのか分からないというのがあると思います。民生委員の方は研修は受けておられるので、一度声をあげてみるのもいいと思います</p>	<p>利用者様、ご家族から得た情報を「軒下マップ（本人を中心とした周囲との関係性を表した図）」に記入し、地域とのつながりを全職員で共有したうえで、社会資源を有効に活用し、本人の暮らしを支えていきます。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>地域での取り組みや行事への参加を通して地域の特徴や課題を知り、話し合える場となるような会議になるよう、会議内容の見直しを行っていきます</p>	<p>地域行事への参加がなかったこともあり、事業所の定例報告をメインとした会議内容になってしまいました。</p>	<p>年間の会議の議題を計画されるのは良いと思います。</p>	<p>事業所の定例報告に加え、年間の会議の議題を事前に計画し、地域の困りごとや相談などについても気軽に意見を出し合える会議を目指します。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>いざと言う時に地域と連携して動けるような防火・防災訓練を継続していきます 災害時の備蓄をしっかりと行い、全職員がスムーズに動けるよう訓練していきます</p>	<p>今年度の防災訓練は事業所の職員と利用者様のみで行われました。</p>	<p>利用者様、職員さんが不安なく行動できるように、しっかりと訓練をお願いします。</p>	<p>日中、夜間両方を想定し、役割分担を明確にしたうえで訓練を行います。</p>